

Case14 (2021.6.14)

40代 女性

主訴:産後の腰痛¹³¹⁴¹⁵

診断名:急性筋筋膜性腰痛→腰椎椎体骨折

関わった医療機関(施設):整形外科、助産院、鍼灸院

産後の腰痛により助産院より鍼灸院へ紹介を受けた症例。
整形外科のXP所見で器質的に問題ないとの事で3回の鍼灸施術を行った。改善を見なかったため再検査を勧めた所、腰椎椎体骨折が見つかった。

症例検討:

Q,(鍼灸師)産後の施術という事であったが、刺激量はどうか？

A,(報告者)当院での産後の腰痛の訴えは多い。今症例に関して、骨折している可能性は頭になかった。刺激量はケースバイケースで施術にあたっている。

Q,(鍼灸師)産後の骨折症例の発症頻度は何%か？

A,(報告者)調べたが報告は少ない。当院では、高齢の圧迫骨折の症例、骨のう胞の症例の経験があるが産後の腰椎椎体骨折は初めてであった。

(鍼灸師)圧迫骨折かと思い整形外科での精査をお願いしたが骨折ではない事もある。専門でもみつけるのは難しいかもしれない。

(報告者)3回施術して主訴に変化をみなかったので整形の再受診を促した。初診時に診断があったことで安心していた。

(医師)報告を聞きながら文献¹⁶を引いたが、妊娠出産時の腰椎骨折症例の報告は少ない。

13. [妊娠または授乳に関連する骨代謝プロファイルの変化|科学レポート \(nature.com\)](https://www.nature.com)

14. 妊娠後骨粗しょう症により多発椎体骨折をきたした2例 整形外科と災害外科
<81999841819990AE8C608A4F89C836382D342E696E6462> (jst.go.jp)

15. 産褥期の腰痛に関する研究 中澤 貴代; 高室 典子; 山中 正紀; 良村 貞子
看護総合科学研究会誌, 9(3), 3-14

https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/35509/1/9-3_p3-14.pdf

16. Pregnancy-related osteoporosis and spinal fractures

妊娠関連の骨粗鬆症と脊椎骨折

Obstetrics & Gynecology Science 2017; 60(1):133-137

「(産後)骨粗鬆症の有病率は、50歳未満の女性では2%未満、20歳から40歳ではわずか1.2%」(The prevalence of osteoporosis is less than 2% in women younger than 50 years and only 1.2% between the ages of 20 and 40 years)

[Pregnancy-related osteoporosis and spinal fractures \(ogscience.org\)](http://ogscience.org)

臨床において症例の報告が少ないので注意が向かず、ゆえに見つけるのは難しいと考える。このような変化を見つけるためには自分の目と患者の声で判断する事も大切だと思う。

(鍼灸師)5回施術を行ったが、訴えに変化ないために再度整形受診を促し脊髄腫瘍が判明した症例を経験したことがある。

(鍼灸師)腰痛やぎっくり腰に改めて注意したい。
日常の臨床において最低限のチェックを怠らないようにしたい。

(医師)鍼灸院だけで判断できない患者を総合診療科で受け入れる事を考えている。

(鍼灸師)何でもかんでも送るのはいけない。何故わからないのかを考えたり、疾患に対する洞察力を鍛える事も大切だ。

(鍼灸師)鍼灸院で取れる所見では、根拠を示すのが難しい。どのレベルまで紹介状に書くのか、議論を深める必要がある。

(医師)医師との連携により早期診断にどれだけ寄与したかデータが取れれば面白いのでは。

(医師)症例報告に関係した文献を調べて考察を最後につけると参加者の学びになるので次回よりそうしましょう。

(医師)「後医は名医」という言葉がある。現代医学で改善しないために鍼灸院を訪れるケースもあるが、前医や関わった医療従事者への敬意が連携において大切だ。